

令和4年度 ヒノヒカリ (中間・平坦部) 栽培基準

月・旬	4月 下旬	5月 上旬 中旬 下旬	6月 上旬 中旬 下旬	7月 上旬 中旬 下旬	8月 上旬 中旬 下旬	9月 上旬 中旬 下旬	10月 上旬 中旬	
生育ステージ		播種期	移植期	有効分げつ終止期	最高分げつ期	穂首分化期 幼穂形成期 幼穂長1mm 幼穂長1cm 減数分裂期	穂ばらみ期 出穂期	成熟期
葉色		濃い ↑ 5.0 4.0 3.0 ↓ 薄い	3.5	5.0	4.0	4.5		
水管理	地面	深水	浅水	間断灌水	中干し	間断灌水	湛水管理(カドミウム対策)	落水
主な作業	種子消毒	播種	基肥散布 田植 箱施用剤散布 除草剤散布	中干し けい酸加里施用	補完防除	穂肥散布① 畦畔の草刈 穂肥散布②	出穂前防除 穂揃期防除 補完防除	稲刈り 土づくり
使用資材		催芽粉 150g/箱	施肥基準参考 防除基準参考 除草剤基準参考		防除基準参考	施肥基準参考 施肥基準参考	防除基準参考 防除基準参考	
作業上の注意	5～6月の作業注意点 育苗 ・種子更新する ・播種は催芽粉で150g ・昼夜の温度に気を付ける ・灌水のやりすぎに注意 基肥散布 ・全層施肥の場合は田植10日前頃から散布、よく土壌と混和 ・施肥基準量は遵守する(土壌条件にて加減する)			7～9月の作業注意点 中干し ・田植後30日頃を目安に実施 ・茎数過多 → 強めの中干しを ・茎数過少 → 間断灌水の延長 畦畔の草刈り ・カメムシ対策のため、遅くとも出穂前2週間までに畦畔の草刈りを実施 出穂前後は、カメムシ被害を助長するので草刈りを実施しない			10月の作業注意点 刈取り ・刈取りの判断は青み率が15～20% 積算温度で1,000～1,050℃ ・玄米水分値15.0%を目標に乾燥調整 土づくり ・土壌改良資材を投入し年内に糞のすき込みを行い十分に分解させる	

施肥基準

●分施の場合

肥料名	全量	基肥	追肥	穂肥	穂肥	成分量	
						窒素	リン酸加里
土壌改良資材	40～200						
28苦土重焼燐	10～20	10～20				窒素	9.8kg
化成肥料14-14-14	70	30		20	20	リン酸	12.6～15.4kg
けい酸加里プレミア34	10～20		10～20			加里	11.8～13.8kg
計							

肥料名	全量	基肥	追肥	穂肥	穂肥	成分量	
						窒素	リン酸加里
土壌改良資材	40～200						
28苦土重焼燐	10～20	10～20				窒素	9.8kg
化成肥料14-14-14	30	30				リン酸	8.4～11.2kg
けい酸加里プレミア34	10～20		10～20			加里	9.7～11.7kg
穂づくり640	35			35			
計							

●緩効性の場合

肥料名	全量	基肥	追肥	成分量	
				窒素	リン酸加里
土壌改良資材	40～200				
28苦土重焼燐	10～20	10～20			
ハイユークート582	40	40			
または すご稲中晩生	40	40			
けい酸加里プレミア34	10～20		10～20		
計					

※肥料は圃場の地力に応じて施肥量を加減して下さい。
 ※けい酸加里プレミア34は基肥で施用も可能です。
 ※緩効性肥料施用の場合、出穂前に葉色が淡くなる場合は「化成肥料14-14-14」を10kg/10a程度散布しましょう。